

## コナラ種子の貯蔵試験

### 1 試験の目的

コナラは、種子の長期保存が難しいと言われ、苗木の安定供給の障害になっている。今回、温度条件と貯蔵前の殺菌処理を行うことにより、2 年間にわたり高い発芽率を維持することができたので紹介する。

### 2 材料と方法

種子の貯蔵は、平成 8 年と平成 13 年の 2 回行った。貯蔵した種子は、発芽率のばらつきをなくすために 1 本の母樹から収集した種子を用いた。処理条件は、貯蔵温度を 3、0、- 3 の 3 条件とし、殺菌処理ありとなしの 2 条件を組み合わせで行った。なお殺菌剤は農作物のかび病予防に使用されているベンレート水和剤を用いた。

### 3 結果

( 1 ) 貯蔵温度：平成 8 年に貯蔵した種子の 2 冬期間経過後の発芽率を温度条件ごとに比較すると、0 で貯蔵した種子が最も高い発芽率を示した。( 表 1 参照 )

( 2 ) 貯蔵前殺菌：平成 8 年に貯蔵した種子の発芽率は、殺菌処理を行うことにより高くなった。平成 13 年に貯蔵した種子でさらに殺菌処理の追試を行ったところ、効果が認められた。

( 表 2 参照 )

以上のように、コナラの種子を貯蔵前に殺菌処理し、貯蔵温度を 0 にすることにより 2 冬期間経過後でも高い発芽率を維持することができた。

表 1

H8 貯蔵で H10 播種の結果(発芽数/播種数)

処理条件	殺菌あり	殺菌なし
3	76 / 120	4 / 120
0	105 / 120	83 / 120
- 3	22 / 120	4 / 120

殺菌はベンレート 500 倍液で 1 時間処理、1 時間風乾後、ポリ袋で貯蔵した。

播種は屋外で実施した。

表 2

H13 貯蔵で H15 播種の結果

処理条件	H15 発芽数
殺菌あり	114 / 200
殺菌なし	69 / 200

殺菌はベンレート 250 倍液で 1 時間処理、1 時間風乾後、ポリ容器で貯蔵した。

貯蔵温度は 0 とした。

播種は屋内で実施した。



コナラの発芽の状況

( 担当 育種緑化部 専門研究員 神山博希 )

### 連絡先

028 - 3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560 - 11 TEL019 - 697 - 1536  
 岩手県林業技術センター FAX019 - 697 - 1410  
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>